

プレゼンテーションの技術 3アンケート031027①

ディベートは肯定派と否定派に分かれて討論すると思っていましたが、いろいろな事例や見解によっては、2組以上になると思った。

私は、反対意見の人の意見を聞くと寝返ってしてしまうことが、結構ある。また、典型的な日本人なのか、意見を交換しあって、戦うことが苦手だ。今回の話を聞いて、このままではダメだなと思った。もっと自分の考えをはっきり言葉にして発することができるようになりたい。

自分の命の恩人が親の仇」という話が面白かったです。意味もなく自分の親を殺したロクデナシであるか、それとも深い理由があって親を殺したのか。少なくとも他人の命を助ける人間はロクデナシではないと思ったりもしました。

逃げる
3人

苦痛
17人

ディベートをするには松本先生のように、人生経験が豊富でなければいけないと思います。本などをたくさん読んで、知識を豊富にしたいと思います。

職場の会議でもディベートを用いれば、もっと活発な意見交換がなされ、新しい考えアイデアが生み出されるのではないかと思います。

実際に例を挙げてディベートをしていたのが分かりやすかった

終わるまで意見を貫き通すディベートはおもしろいと感じた。改めて言葉の難しさを感じた。

人の意見はよく聞いて、影響を受けたりするのはいいことだけど最後に決めるのは自分だ。

白黒つけた答えをだすのは難しいですね。そういう生き方はしてこなかった。勝ってもよし、負けてもよし、勝ち負けと言っていないのか、わかりませんが)という点は、まさに「前向き」。

「ディベート」が自分の想像していたものを絶するもののような気がしてきた。終わった後にスッキリできるディベートというのがどんなものなのか...?

今まで自分が考えていたディベートとだいぶ違っていた。ディスカッションとディベートを今までは、どこかで同じように考えていたのかもしれない。

ディベートは議論とは違い、ぶつかり合って、そこではじけてしまうのではなく、互いの意見を聞いて上に上がっていくものだと分かった。

ディベートは今までは、相手の意見を否定したり何となく後味の悪い感じのものだと思っていました。でも意見を互いにぶつけ合って「ありがとう」って感じになるのなら得るものがとても多いと思う。少し興味が湧いてきた。

ディベートはおもしろかった。理屈抜きにおもしろかった。大学にはぜひ必要だ。社会に出たらとても必要だ。しかし、論理的に考えるのはやはり難しい。尊敬できる人ができたことを幸せに思います。

ディベートははっきりしているという点は好きだ。日本人の曖昧な「特性」はディベートを通じて変えられるかもしれない!

ディベートに対しての考えが変わったと思います

松本先生の授業はおもしろかった。整形手術についての討論は楽しかった。反対派、賛成派、両意見の立場によって、考えをまとめるのはおもしろそうでした。

プレゼンテーションの技術 3アンケート031027②

自分の意見を否定されて
ありがたいいい事を学んだ！」
と言うことは、なかなか難しいが
仲良くなれる議論を目指したい。

特にありません

苦痛
17人

『DEBATE』の本当の意味がわかり、
おもしろいものだと思った。
自分の中に、何か武器になる特技
を持ちたい。あと、自分の考えを
はっきり持つように心がけたい。

ディベートがどんなものかわかった

2コマ目とは違った印象でした。
整形手術の例がわかりやすく
納得させられました。また、いら
して欲しいです。

素晴らしい講義でした。私は英語
について全然わかりませんが、
先生のプレゼンテーションに対する理解
も多少わかりようになりました。
先生の講義するときのパワーを
すごく感じました。

仕事
22人

ディベートは、連日のTVの国会の報道を見ていると、
けんかのように見えるが、松本先生が考案された
ディベートは仲良くなるもの」という本来の形式を
取り戻せば、ディベートで勝ったほうも負けたほうも
勉強になるし、ディベート力の互いの向上に
つながるのではないだろうか。

背骨をしっかりしてから
議論しようと思った。
松本先生の分析力は
素晴らしいと思った。
ケンカにならない議論
って素敵だなあと思い
ました。手法、考え方
を身に付けたいと思う。

自分自身は、あいまいで、賛成か反対か
というのを決めるのは、とても苦痛なこと
だと感じている。あいまいでいた方が楽
だからだと思う。自分の考えを強く言う
と相手が気分を悪くしてしまうのではないかと、
心配するからかもしれない。ディベート
というものの感覚が私自身に身について
いないので、どうしていいのかわからない。

中学校の時に経験したディベートは、ほぼ原稿を読んでいるような状態で
全く議論になりませんでした。大学に入り、様々な話し合いを
するようになりましたが、どうしても話がアチコチにいつてしまい、
そういう部分でディベートのスキルが必要になってくると実感しています。

とても生き生きとした講義でした。今回の臨時
ドラマを演じていただいて、もう一度自分の議論
能力が低いと痛感しました。自分の意志を主張し、
意見を強調するのは相手を説得するのに
大事でしょう。先生のお話の中に 自分の優れて
いる所を捨てて、相手の長所を学ぶことは大切
だ」という言葉は、印象深かったです。

仙台は、自分が思うに、周りとは違うことをする人の足を引っ張る気質が
あると思います。内に秘めた考えや思いをめいっぱい吐き出せることが
仙台人に必要であると思います。
ディベートの中に生産性がなければならない」
この言葉を胸にディベートを通して何かを生み出していきたいと思っています。

久恒先生も言っていたように、ディベートはもっと
激しくて、攻撃的なものだと思っていましたが、
先生の話の聞くと、そうでもないような気がしました。

反論をしてもらうことが嬉しいという事にかなり共感しました。
人と話をしていて、自分の意見で話をしてくれない人とは、
なかなか深く付き合っていけないと思っています。

プレゼンテーションの技術 3アンケート031027③

六角ロジックの話はすごい納得しました。思っていることをはっきりと主張し、お互いに向上できるようなディベートができるようになればよいなあ、と思います。

先生のお話を聞いて、今まで抱いていたディベートへの概念と大きく違っていたので、目からうろこでした。負けても喜べるディベートができるように、自分と違う意見もなるほど、と受け入れられるように努力したいです。

仕事
22人

中学校の時、音楽の授業で「演歌好き派」「演歌よりもニューミュージックなど他の歌派」にわかれて議論をするというのがあったのを思い出しました。

おもしろい話がたくさんあった

英語を学びたいと騒いでばかりいて日本語を曖昧にしている自分はまだまだだと松本先生の講義を受けて思いました。やはり常に考え、自分の考えをもつ事が大切。

具体的な劇をやって状況を再現し、わかりやすくディベートについて進めていた。

日常生活でも、友達と自分の考え方の違いで学べるので、これからも、自分の考えを持って、友達と反発し合っていきたい。

ディベートを六角形の中にもうまぐ当てはめて説明してくれたので、今まで自分が考えていたディベートとは違うことに気づき驚いた。

ディベートの意見から細かい所まで、とてもよくディベートについてわかりました。

とても興味深かった。ディベートに興味を持ちました。TPOが大事だと感じました。

その他
17人

講義の趣旨とは異なるかもしれないが、伝家の宝刀はかくし持つ。いざという時にしか出さない」という言葉がとても印象的だった。自分は～というものを持っている」という自信があれば、どのような状況に置かれても自分を保ち続けることができるのではないかと考えた。

今日はプレゼンテーションではなく、会議の中での意見の述べ方というのを学べた。

ディベート研究会に参加したことがあるが、やはりディベートの技術はつけるべきだと思う。ディベート研究会には、これからも参加していきたい。

松本先生の発言は、面白かったですが、日本語と英語がまざっていて、理解できなかったところもありました。納得「診療」への異議は、いい点をついていたと思います。

自ら
4人

聞いていて飽きない時間だった。六角ロジック、立体化ディベートをできるような考え方をしていきたい。Issueの本質を探れるような力をつける。そして、その路線から外れないような議論をしていきたい。

久恒先生に質問です。なぜこの講義に松本先生を呼んだのですか？学生に何を与えよう、または、考えてもらおうとしてもうけた特別講演だったのでしょうか？松本先生のお話はとてもおもしろいと思いました。

プレゼンテーションの技術 3アンケート031027④

「けんかにならない議論」これは、とても大切なことである。

ディベートの内容は理解
しがたいものが多く、もっと
学生が参加できるのでは
ないかと感じました。

テーマを与えられ、その場で
考える授業だったので、頭を
すごく使った。自分だったら
どうするか、ディベートに1つ
の答えはないと思った。

反論をする相手と敵対するのではなく、立体的な
ディベートをして、新しい価値観をつくっていくと
いう話に興味を持ちました。

負けて喜ぶ、負けると学ぶことができる
ということがとても印象に残りました。

その他
17人

松本先生の講義を受けて、討論と議論
のことについて、少しわかってきました。
本当に素晴らしい授業でした。

仮のディベートをしましたが、松本氏は
決して答える人から解答があるとは思
ってないと感じた。多分、松本氏は
心で思っていることを言われたとしても
それを決して表には出さず、お互いの
意見を聞き、尊重しあう姿勢を一貫して
つらぬいているのには、素晴らしいこと
だと思いました。

大学の講義で、私達学生が
発言する機会はあまりない
ので、今日の講義はおもしろ
かった。学生がもっと発言
できるようになれば講義は
よりおもしろくなっていくと思う。

私は、自分の意見に賛成されると嬉しいですが、指摘
されることを望みます。自分はまだまだ足りない所が
多く、そこを埋めていきたいです。それには、自分を
不得意な場に置いていくことで埋めていけると思う。

先生のお話はすごく興味をそそられるものでした。
“ディベート=立体化する理論”と先生はおっしゃい
ました。「なるほど！」と思いました。平面的な広がり
のディベートを今までしていたのだと反省し、立体
的な広がりを目指すディベートをしたいと思ひます。

今までディベートとはすごく嫌な事
だと思っていたんですが、今日
松本先生の講義を聞いて、ディ
ベートというのは、とても勉強に
なるのだとしみじみわかりました。
ディベートをするうちに、自分の
見方が広がるのを感じました。
これから自分のために積極的に
ディベートに参加しようと思ひます。

ディベートが熱いということがよく
わかりました。そのディベートで、
自分の意見を構成立てて言う為
には、やっぱりプレゼンテーショ
ンの技術が必要だと思ひます。

ディベート研究会は何をやっている
のですか。松本先生は火と水でも
なく中間がよい、と述べられたが、
「氷」に寄っているべきだと思う。
日本人が皆「火」だとすると、
修復はありえないからだ。

もっと話し方を研究し、ディベートにのぞむに
あたっての強みをつけておきたいと思う。

ディベートの必要性はわかりませんが、空、
立体的なディベートのイメージがわかりません。
松本先生の本も読ませていただきましたが、
言葉の定義があいまいで理解に苦しみました。

とてもおもしろい授業でした。自分も
日本人の典型のように、まずは自分
を守るように意見を言ってしまう傾向
があると思った。また、相手の話を
聞くだけだと理想論で終わってしまう
ので、ディベートをすることで、話の
本質をキチンとつかめるように、
これからはしていきたい。